

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第114回



新垣 悠河
不動産学部
2年

高輪ゲートウェイシティの見学を通して、近年の都市開発が単なる再開発ではなく、多様な機能を集めた都市空間へと変化していることを実感した。駅を中心としてオフィス、商業施設、ホテル、住宅、文化施設が全体的に整備されており、交通の拠点としての役割だけでなく、人々が働き、交流して滞在する複合的な都市空間として設計されているところが特に印象的だった。

高輪ゲートウェイシティの再開発

都市計画の在り方を再確認

史や文化、地域住民とのつながりをどのように残していくのかも重要な課題であると感じた。

この見学を通して、前学期のゼミで読んだ『新・都市開発の時代』で学んだ内容との関係を強く感じた。この本では、都市計画は道路や建物を整備するだけではなく、人々が安全で快適に生活できる環境を長期的

な視点でつくることが重要であると述べられ

ためには、住民や企業、行政が協力しながらまちを育てていくことが必要だと考えた。

今回の見学を通して、都市計画とは未来の街をつくるだけではなく、そこに暮らす人々の生活や地域の歴史を大切にしながら発展させていく取り組みであることを改めて学んだ。今後も都市開発の事例を見る際には、「誰のための街なのか」「どのような未来を目指しているのか」という視点を持って考えていきたい。

き、交流して滞在する複合的な都市空間として設計されているところが特に印象的だった。

一方で疑問に思ったこともある。

それは、このような大規模再開発によって地域に住んでいた人々や昔からある商店街との関係がどのように変化していくのかという点である。

ていた。また、人口減少、少子高齢化、環境問題など今、私たちが直面する課題の対応においても、深く考える必要がある。

【教員コメント】

新垣さんはゼミの課題図書に大岡哲著「新・都市開発の時代」を選んでいる。1989年出版なので、教

見学の中で最も興味をもったのは、都市開発において環境への配慮やデジタル技術の活用が積極的に取り入れられているところである。緑地や広場を多く設けることで都市環境の快適性を高めるだけでなく、エ

要なものではなく、その土地が持つ歴

高輪ゲートウェイシティは、まさにその考え方を実際の都市開発として形にした事例であると感じた。新しい街が完成した後、多くの人に

員の学生の頃、ウォーターフロント開発が話題だった頃の内容であるが、最新の開発を目の前にして、そ

境の快適性を高めるだけでなく、エ

要なものではなく、その土地が持つ歴

親しまれ、地域全体が発展していく

再認識した。

(斎藤千尋)